

都市再生整備計画 事後評価シート
田名地区

平成23年3月

神奈川県相模原市

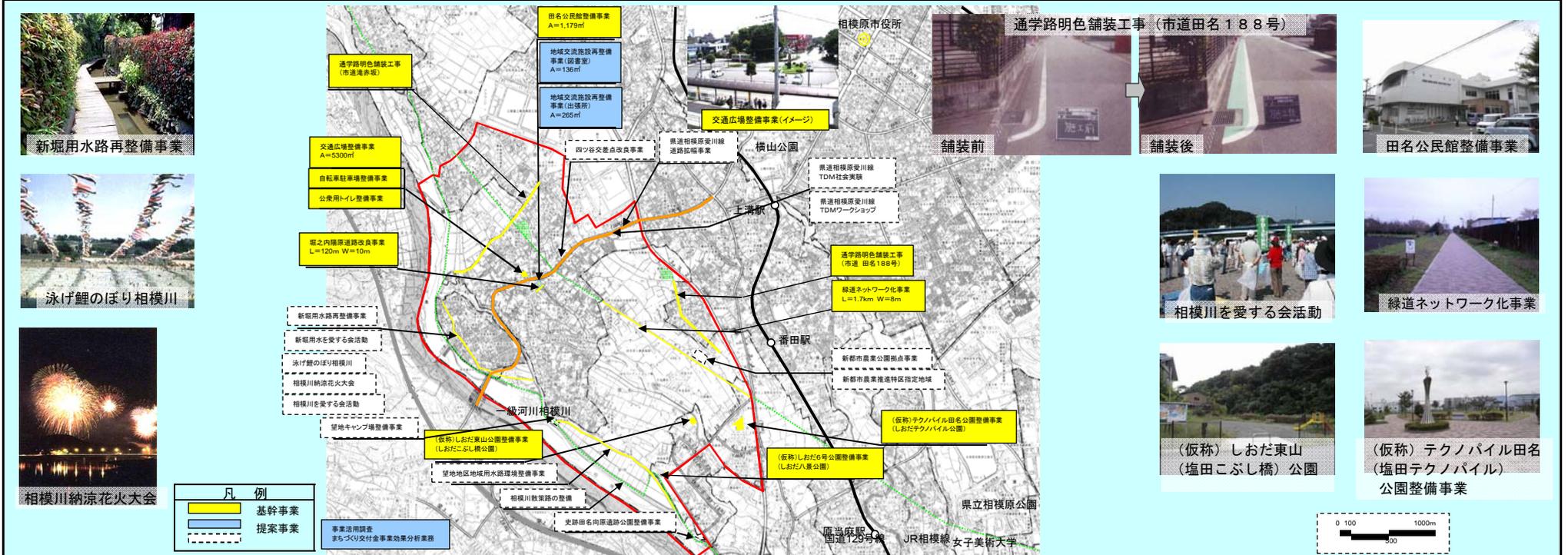
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	相模原市		地区名	田名地区		面積	777ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,344百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	(道路)交通広場整備事業、市道堀之内陽原道路改良事業、(公園)(仮称)テクノパイル田名公園、しおだ東山公園、しおだ6号公園、(地域生活基盤施設)自転車駐車場整備、(高質空間形成施設)緑道ネットワーク事業、公衆用トイレ等整備事業										
		提案事業	(地域創造支援事業)地域交流施設再整備事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	(地域創造支援事業)観光拠点整備実施計画策定、観光施設再整備事業		市全体における観光計画の見直しや相模川ふれあい科学館再整備計画の再検討により交付期間内の事業着手が見込めなくなったため				ゆとりある生活環境の増進の目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。				
	新たに追加した事業	基幹事業	①(道路)市道滝赤坂ほか1、市道田名188号 ②(高次都市施設)田名公民館整備事業(公民館分)		①歩行者通行帯の明確化を実施し、歩行者の安全性の向上を図りゆとりある住環境を創出する。 ②地域交流の中心的施設を利用者のニーズに合わせて施設機能の拡充を図る。				①交通環境の改善の目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 ②ゆとりある生活環境の増進の目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。				
提案事業		①(地域創造支援事業)田名公民館整備事業(出張所分)、 ②(事業活用調査)まちづくり交付金事業効果分析業務		①公民館の整備に合わせ併設する出張所の機能充実を目的に追加。 ②適切な事業評価を実施するために追加する。				①ゆとりある生活環境の増進の目標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 ②影響なし					
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				なし					
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	指標1	来訪者数	人/年	762,000	H16	838,000	H22	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	バスの利用率	%	100	H16	200	H22	—	114	△	あり なし	道路等基盤整備による利便性向上や、観光イベント充実、地域交流・緑のネットワーク整備により、利用者が増加し、来訪者の増加が図られた。	平成25年4月
	指標3	地区内定住人口	人	27,660	H16	28,500	H22	—	28,910	○	あり なし	公園・田名公民館、地区内道路改良、農業関係やイベント等によって、ゆとりある居住環境が確保され、地区内定住人口の増加が図られた。	平成23年6月
	指標4	地区内の1人当たりの公園面積	m ² /人	0.82	H16	1.10	H22	—	1.27	○	あり なし	公園事業等の計画どおりの完了により、ゆとりある緑豊かな生活環境の増進が図られ居住環境が向上し、目標の達成が図られた。	平成23年6月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	その他の数値指標1												
4) 定性的な効果発現状況	<p>①交通広場整備事業の用地取得の進展に伴い、地域でのバス交通に対する機運が高まっており、市が策定した導入条件に準じ、交通不便地区の解消に向けた地域組織が発足され、交通広場を起終点コミュニティバスの導入検討が活発に行われている。</p> <p>②現在、事業区域内の一部を活用したサイクル&バスライド用の自転車駐輪場として暫定供用したことにより、他地区からのバス利用者が見られるなど、バス停勢圏の拡大に寄与しており、利便性向上が図られている。</p> <p>③交通広場整備事業が進行し、交通利便性の向上に対する地域住民の期待が高まるにつれて、住民側からも「使いやすい公共交通のあり方について市に要望するだけでなく、協力できることは進んで取り組んでいきたい。地域住民と市がお互いにメリットを得られる関係をつくっていきたい。」といった声が寄せられている。</p>												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	水郷田名観光開発推進協議会によるまちづくり活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後の地区における事業実施等に際しては、本会の活動を活用しまちづくりへの取組を進める。	
持続的なまちづくり体制の構築	愛川線TDM施策の本格実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 各事業主体の持続的な取組みにより、実施計画の完了まで取組を進める。		

様式2-2 地区の概要

田名地区(神奈川県相模原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	従前値	目標値	目標値	評価値	評価値
ゆとりとふれあいの空間創出による、観光交流拠点の創造と市民生活の向上 相模川等の観光資源を生かし、地域振興を図る。 バスターミナル整備等の交通環境の改善を図り地域の活性化を図る。 緑道、公園等の整備によりゆとりある生活環境の増進を図る。	来訪者数	単位:人/年	762,000	H16	838,000	H22	965,500	H22
	バスの利用率	単位:%	100	H16	200	H22	114	H22
	地区内定住人口	単位:人	27,660	H16	28,500	H22	28,910	H22
	地区内の1人あたりの公園面積	単位:m ² /人	0.82	H16	1.10	H22	1.27	H22
		単位:						



まちの課題の変化

【当初の課題:改善された事項・残された未解決の課題】

- ①相模川への来街者を回遊させる観光地の機能強化:新堀用水路木道再整備、望地地区地域用水環境整備等のハード事業と、泳げ鯉のぼり相模川や相模原納涼花火大会等のソフト事業により、入込観光客数が増加し、賑わいが創出された。
- ②唯一の公共交通機関であるバス交通の強化:交通広場整備事業の進行に伴い、事業への機運は高まっているが、依然としてバス路線網が複雑で、効率的でなく、かつ、利用しにくい。
- ③優良な農地の保全:望地地区地域用水環境整備事業、農業公園拠点事業等により、農業関係の活性化に寄与できた。
- ④自然環境の保全等による地域居住環境の向上:通学路・歩道整備による安全性の確保ができ、また田名公民館(図書室、まちづくりセンター(出張所))、緑道ネットワーク化及び3つの公園施設整備、望地地区地域用水環境整備等により、ゆとりある緑豊かな地域居住環境が向上したが、公民館付近における利用者の安全性等が十分に確保されていない。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【効果を持続させるために行う方策】

- ・整備した施設の清掃等住民活動による維持管理参加の促進
- ・交通広場整備事業の進捗に伴う交通利便性の向上に対する地域住民意識の高揚
- ・営農希望者へのPRの促進
- ・整備した道路、公園の維持保全

【改善策】

- ・効率的かつ利用しやすいバス路線網の早期実現
- ・公民館へのアクセス道路の隣接区間の拡幅整備による利用者の安全性・快適性の向上